

早稲田大学 文学部 世界史 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	60分
特徴・その他	難易度はやや易化。大問7題は昨年と同じだが全体の設問数は50問と7問増加。昨年は1題出題された地図は出なかった。小論述は昨年同様独立した1題で字数は20字から20字に増加した。古代史は連年の出題。これに反して近現代、とくに20世紀からは1題だけと現代史軽視の傾向が強い。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
〔 〕	古代オリエント世界・地中海世界	記述式は易しく、正誤判定と選択問題は標準的レベル。設問2の「複雑な国際関係」とはアマルナ時代をさす。設問4 - 二の「鑄造貨幣」は昨年も類題が出ていた。	標準
〔 〕	仏教関係史	(2)はブドチンガでも可能だが、並んでいる鳩摩羅什が漢字表記なので漢字で答えるべき。仏教関係遺跡の写真はどれも教科書の定番である。	標準
〔 〕	朝鮮関係史	ここも記述は易しい。しかし、朝鮮半島の地図は少々厄介(昨年の中国地図も厄介だった)。瀋陽と博多を結ぶ線上に半島の重要都市がほぼ並ぶというユニークな発想はよいとして、まずは図中のA～Dを正確に判定できるかどうか。A：平壤 B：開城 C：漢陽(現ソウル) D：慶州である。設問3の「日本列島の銀が大量に中国に流入した際に…」は余り深く考えずに「朝鮮王朝(李氏朝鮮)」を連想し漢陽を選ぶ。設問4では金日成と衛満が平壤、李成桂は漢陽に関係する。設問5の吐蕃はソンツェンガンポの吐蕃と思い込むと選んでしまう。教科書の地図をよく見れば、宋代にもチベット高原には「吐蕃」とあることがわかる。ただ、これは統一された国家ではなく、甘粛や青海の勢力(これを青唐吐蕃という)を初めとする地方勢力の割拠状態であった。	一部難
〔 〕	イスラーム世界の展開	設問5のアミールは難しい内容だが、消去法で選べる。	標準
〔 〕	中世ヨーロッパの人の移動と商業	全問が基本的内容である。全問正答したい。	易

番号	出題内容	コメント	難易度
{ }	中国の対北方関係	設問 2 は単純に考えると難しそうだが、要は戦国時代の韓・魏・趙は春秋時代の晋が分裂して出来たということを聞いているに過ぎない。設問 7 の歳幣と歳貢の違いも難しい内容だが、消去法で選べる。	標準
{ }	イギリスの絶対主義	設問 1 のニュートンは 17～18 世紀の人物。設問 3 の私掠船・私拿捕船は漢字に注意。	標準
{ }	欧州統合	設問 2 の E U 未加盟国は難しいが、慎重にやれば消去法での対処が可能。設問 4 のブルガリアとルーマニアの E U 加盟は 2007 年のこと。今年の受験生が使用している教科書や用語集の対象外の事項であり、完全な時事問題である。	一部難

〔総合コメント〕

昨年もそうだったが、記述式に目立つ容易に得点できる問題と、正誤判定に目立つ一部の難問の二極化が激しい。高得点を得るには、まずは標準的問題でのミス絶対に犯さないこと。そして、難しい問題でどこまで食い下がっていけるかである。ただ、一見すると難しそうだが正誤判定も、丹念な消去法で対処できるものが多い。粘り強く正解ににじり寄っていきたい。昨年から連続して出題された地図問題は要注意である。昨年の中国、今年は朝鮮。来年出題されるとしたら欧州であろうか。今年の朝鮮地図には漢江が明記されていて多少はわかりやすくなっていた。どちらにしても、河川を目安にして重要都市の位置をしっかりとっておきたい。今年 3 4 字で出題された小論述は来年も踏襲される可能性が高い。また、文字数が増加する場合もありうる。また、時事問題にも引き続き注意が必要である。